

乙 頁

お と さ だ

第59号 通巻11巻第4

1991年11月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎ (0775) 85-4397

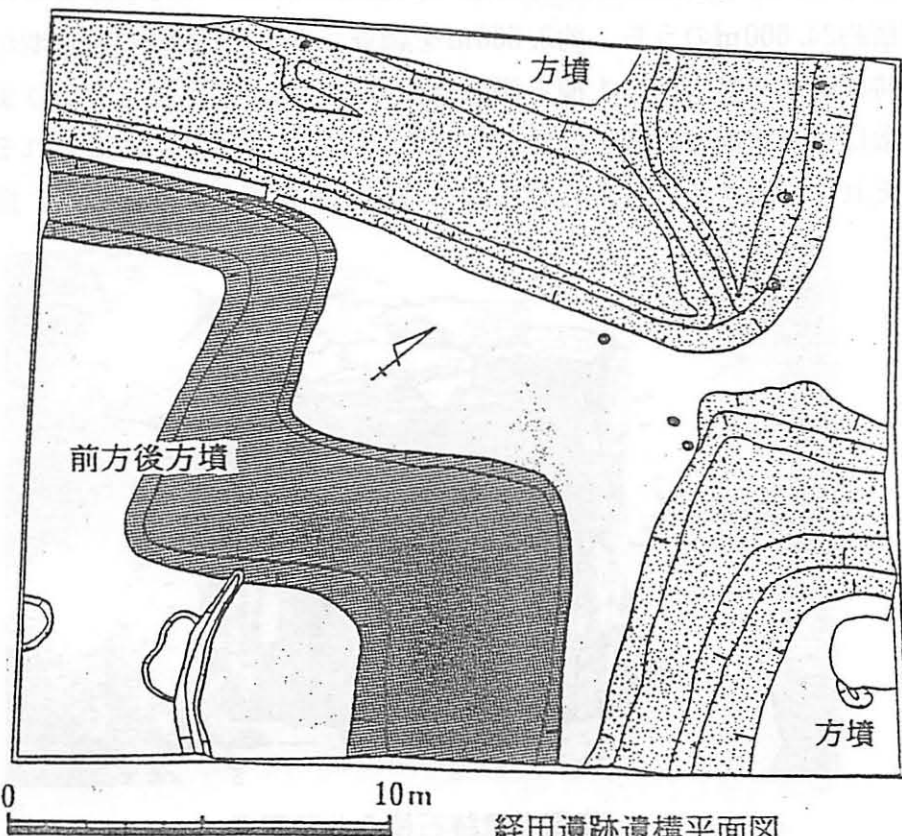
〒 524-02

守山市服部町2250番地

図 市内4例目の前方後方墳発見

1. 経田遺跡^{きょうでん}

今宿町で個人住宅建築に伴い、10月18日から10月24日までの期間で調査を行いました。調査地の北・西側隣接地は過去3度にわたって発掘調査がなされ、縄文時代から古墳時代の遺構が発見されています。今回の調査地は330㎡の面積でしたが、古墳時代初頭の古墳跡3基を調査することができ



経田遺跡遺構平面図

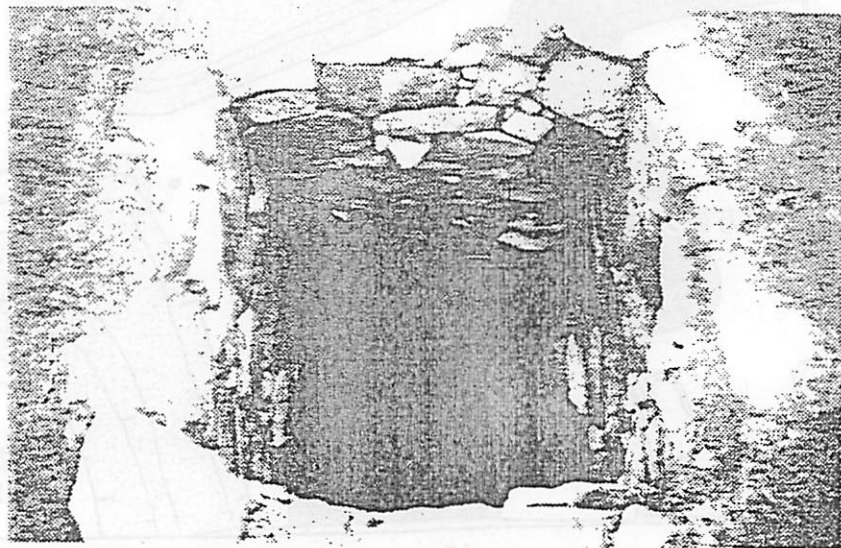
ました。3基のうち2基は方墳^{ほうふん}(SX-1・2)で南側の1基(SX-3)は市内4例目の発見となる前方後方墳^{ぜんぽうこうほうふん}と考えられます。SX-3は全長14m以上(復元長約26m)、周濠^{しゅうこう}は前方部で幅2m・深さ40cm、後方部で5.5m・深さ50cmの規模で、昭和63年に見つかった益須寺遺跡^{やすでら}の古墳よりも前方部が短い形が想像されます。経田遺跡ではこれで11基の古墳跡が見つかったこととなりますが、まだまだ東側・南側に広がることが予想されます。いずれにしても今回の発見は前方後方墳の発生の問題など、古墳時代初頭頃の墳墓^{ふんぼ}の問題を考えるうえで、重要な資料となるでしょう。

(岩崎)

❏ 鎌倉時代の石積み井戸を発掘

2. 益須寺遺跡^{やすでら}

前号で中間報告した益須寺遺跡の調査も9月30日で終了しました。開発面積約24,000㎡のうち、約3,500㎡を調査しました。東側の調査地からは古墳時代前期の竪穴住居1棟と鎌倉時代の屋敷跡が2区画見つかりました。屋敷は幅1m前後の溝をはさんで隣あっていて、屋敷内にはそれぞれ主屋やそれに付属すると考えられる大小の建物と井戸がありました。南側の屋



益須寺遺跡石積み井戸写真

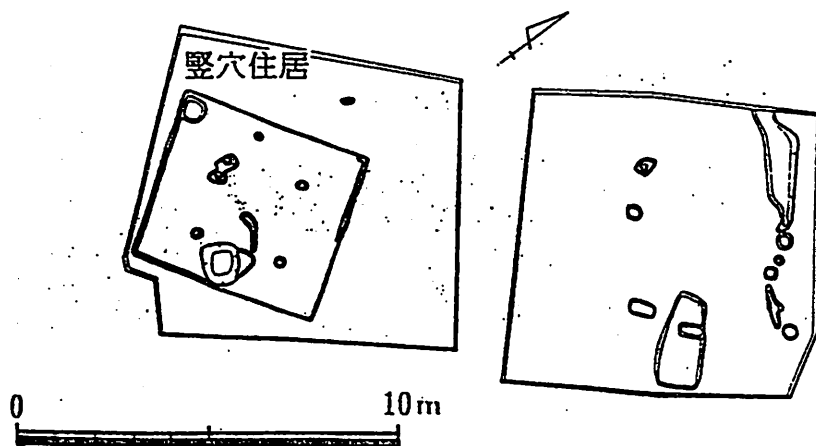
敷から見つかった井戸は四角形に石組みされたもので、深さ2.4mまで石積みされ、さらにその底に径57cmと48cmの^{おげもの}曲物が上下2段に設置されていました。積みされている石は面どりの花崗岩で、すきまに^{かわらいし}河原石を詰め込んでいます。守山ではこれまで木材で枠組みする井戸はたくさん見つっていますが、今回のような構造をもつ井戸はたいへん珍しく、貴重な発見といってよいでしょう。また西側の調査地からも、鎌倉時代と考えられる5間×4間以上の^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物や^{どこう}土塙が見つかりました。ただ東側調査地とは約200mもの距離があることやその間に^{きゆうかどう}旧河道があることから、東側の集落とは別の集落と考えられます。調査地の近くには国・県指定文化財（平安時代）のある^{とうふくじ}東福寺（立入町）や市指定文化財（鎌倉時代）のある^{せいりゅうじ}西隆寺（岡町）など古い寺院があり、鎌倉時代の集落立地を考えるうえで重要な資料といえるでしょう。

（岩崎）

古墳時代中期の竪穴住居

3. 吉身南遺跡

10月1日から10月6日までの間、浮気町地先で事務所建築に先立ち約250㎡を調査しました。その結果、古墳時代中期の竪穴住居1棟と柱穴が見つかりました。竪穴住居の規模は5.1m×4.5mで、住居の中央やや北よりに



吉身南遺跡遺構平面図

焼土(火を炊いた跡)、南西隅に方形・東辺中央に円形の土壇(貯蔵用か?)がありました。排水用とみられる周壁溝は南・東・北の一部に確認されました。遺物は5世紀中頃と考えられる古い須恵器の甕や土師器の高杯・甕などが出土しています。

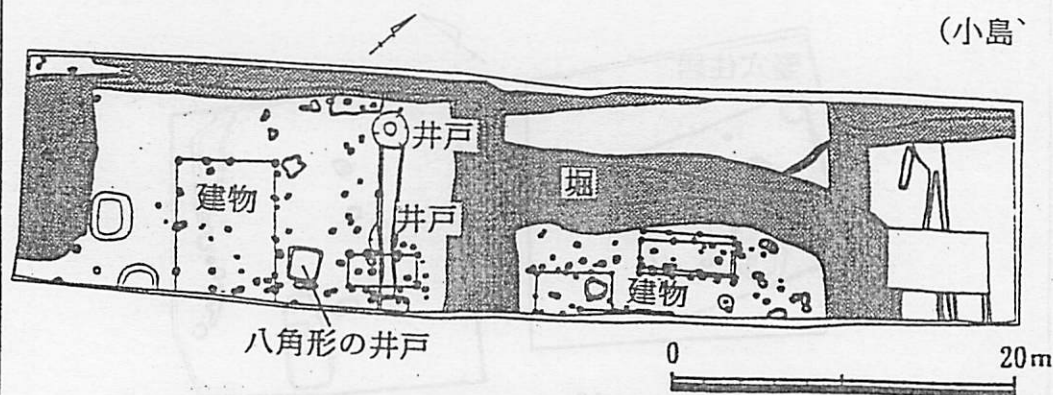
(山崎)

室町時代の屋敷跡の調査

4. 二町鏡遺跡

8月26日から10月5日の間、二町町地先において都市計画道路建設に先立ち発掘調査を行いました。その結果、鎌倉時代から室町時代にかけて屋敷跡が2つ見つかりました。屋敷は川から水を引き入れた幅3～5m・深さ50cm～1m程の堀で囲まれ、その内側に大小の建物と井戸を築いていたようです。昨年このすぐ南側でも同時代の4つの屋敷跡が発見されているので、計6つの屋敷跡が見つかったことになります。屋敷はいずれも堀(溝)で整然と区画されていることから、この村がかなり計画性をもって造られていたことがうかがえます。屋敷群の北端と南端には現在川がありますが、その外側では建物などが見つかっていないことから、この川が村の端であると考えられ、村が南北220m程の規模であったことがわかります。今回の調査地点は村の西端であるとみられ、集落がさらに東に広がっていることが予想されます。

(小島)



二町鏡遺跡遺構平面図

二町鏡遺跡出土の八角形の井戸

この井戸は南側の屋敷から見つかったもので、8枚の板を八角形に枠組みし、内側に水ため用の桶を設置しています。井戸枠は径70cmで、先端は真っ黒に焼け焦げていて、火で焼失したことが想像されます。桶は径50cm・高さ45cmで、竹のタガが2段残っていました。

市内で見つかる井戸の形（平面形）はほとんど方形や円形で、このような八角形の井戸は珍しいといえましょう。

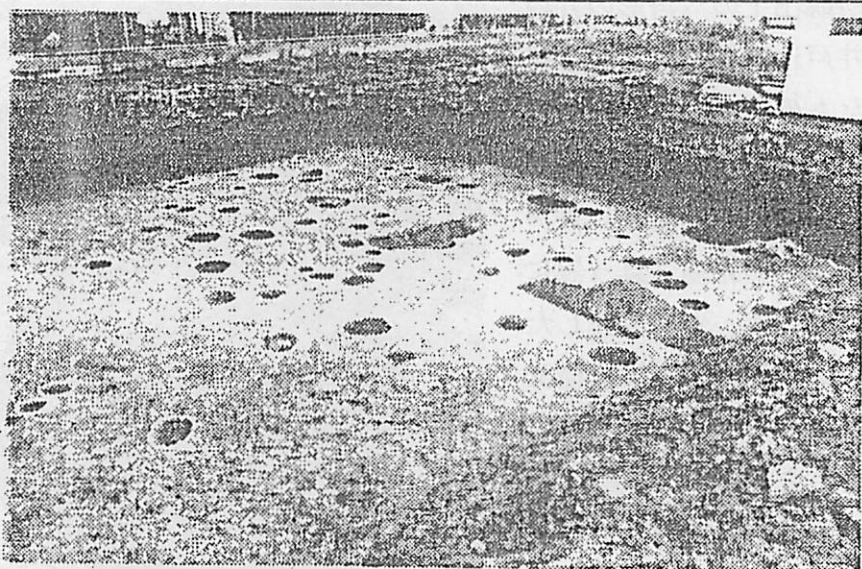


㊦ 縄文時代後期の集落

5. 古高遺跡

6月から実施してきた古高遺跡の発掘調査も10月22日で終了しました。この間、前号で報告したとおり弥生時代後期の溝や平安時代から鎌倉時代にかけての建物跡などが見つかりましたが、その後の調査で調査区の東端から新たに縄文時代後期の土器や柱穴などが発見されました。柱穴は上層遺構（平安時代～鎌倉時代）の下約60cmのところ^{どそう}にあり、その間の土層の中にも縄文土器が包含^{ほうがん}されていました。縄文時代の遺構はさらに東に広がる傾向にあり、経田遺跡の縄文時代後期の集落範囲に含まれるのではないかと考えられます。また、弥生時代から鎌倉時代の遺構はこの地点で希薄^{きはく}になることから、古高遺跡の広がりはこの付近までではないかと思われます。

（畑本）

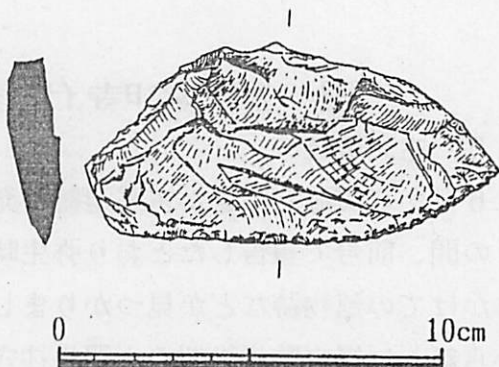


古高遺跡の遺構写真（縄文時代後期の柱穴と土壇）

Ⅰ 調査中 Ⅱ

6. 吉身西遺跡

10月下旬から県立成人病センターの北側で、福祉保健センター建築に先立ち発掘調査を行っています。現在までのところ、古墳時代の小規模な掘立柱建物が3棟と土壇（大きな穴）2基、溝2条が見つかりました。調査は11月末までの期間を予定しています。



(川畑)

吉身西遺跡出土打製石器

7. 下長遺跡

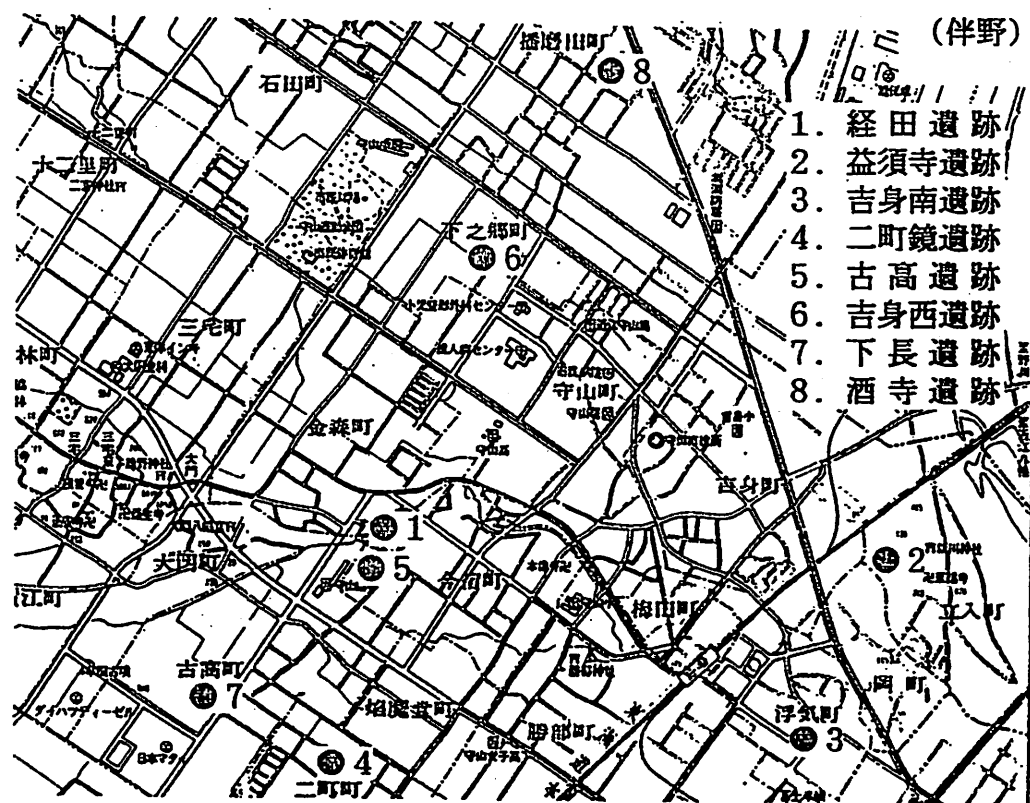
古高工業団地内の一角で倉庫及び事務所建築に先立ち、約1,000㎡を調査しました。これまでに、古墳時代前期の竪穴住居3棟、掘立柱建物数棟、溝多数が見つかりました。竪穴住居は一辺6mの規模で、住居の回りには土地（住居を含む屋敷地状の土地）を区画するとみられる円弧状の溝（幅

50cm程) がめぐっています。この他、調査地中央付近で幅2m・深さ80cmの弥生時代後期の溝も見つかっています。この溝の延長は200m程西側の地点で一部確認されており、あるいは集落を囲む環濠の可能性も考えられます。

(山崎)

8. 酒寺遺跡

播磨田町地先で行っている調査も約4,000㎡が終了し、これまでに古墳時代前期の竪穴住居や井戸、古墳時代後期の掘立柱建物や溝などが見つかっています。古墳時代前期の竪穴住居は一辺が6m程の規模で、床面から土師器の高杯や甕などの土器が出土しました。また古墳時代後期の溝からは須恵器の杯身・杯蓋・甕などが多量に見つかっています。この他、下層から縄文土器が見つかるなど、調査もかなりの成果をあげています。今後いろいろなことが明らかになるたびに「乙貞」で紹介したいと思います。



発掘調査位置図

体験学習会感想文



去る8月24日に行われた発掘体験学習会に参加された方から、いくつか感想文をいただきました。ここでは、その中から小・中学生から寄せられたものを紹介します。

八月二十三日の土曜日の午前中に南中学校の横で発掘調査をしました。テレビなどで発掘しているところを見たことは何回でもあるけど、実際にして見たことは一回もありません。「どんなのかなあ。」と思って参加しました。やってみると以外とおもしろくて、スコップで掘り続けているのは、「何が出てくるのかなあ。」とわくわくしました。そして、土器などが出てきた時は、とてもうれしいです。けれど、何も出てこない穴もあって、その穴を掘り終わった時は、すごく残念です。

このように、みんなと笑いを交えたり、汗をかいたりしながらした、発掘はとても楽しかったです。それと、いただいた写真、記念に大事に残しておきたいと思います。

池田早紀子（小6）

今日、初めての体験学習。大岡さんにすすめられて、心はうきうき。友達の淳子ちゃんと早くほりたいねと話合っていた。すると、「集合。」

だれかのおじさんがこの歴史を話してくれたのでとても勉強になった。次はいよいよほる番である。（ヤッター）と思って、スコップ、バケツなどかりてきて、自分の好きな所を選び、ほっていった。

「まだでてこないよう〜。」

50cmぐらいほったのに全然。すると淳子ちゃんが「あった！でてきたで。」

（いいな〜。）と思わずスコップでかき・・・・。

すると「あった〜。私もあったで〜。」

その時なんて、もう喜んでしょうがありませんでした。とても、うれしかったです。また、このような体験学習をやってほしいと思いました。

寺田千晶（小6）

発掘体験学習に参加して、ぼくは、発掘をするのは初めてなので、とても楽しみにしていました。係の人も、ていねいにせつ明してくれて、楽にほり方が分かりました。初めあまり土器が出てこなくて、いらいらしてきたけど、出てきたときは、すごくうれしかったです。土にもこげ茶色の土と茶色の土があって、土もふみかためたりすると色が変わるんだなあということがわかりました。けれど、一つきもんに思ったことがありました。こげ茶色の部分は、鎌倉時代の建造物のはしらでこげ茶色になったのに、どうしてそこから土器のはへんがでてくるのかなあと思いました。

また、発掘の体験学習をしてください。またぼくは勉強をして、わからないところを、分かるようにしていきたい。今度こういうことをするときにはまた応えたいと思います。

岡村智幸（小6）

僕らは、このような体験学習ができてとても良かったです。初めての発掘に感激しました。ただ土を掘るという事ではなく、緊張感と希望にあふれながら土を掘るのです。掘っていて、初めて土器のかけらが出土した時のうれしさは、何とも表現のしようがありません。

僕らは先生方を見ていてすごいなと思いました。それは、土器のかけらを一目でその土器がつくられた時代が分かるからです。僕は、中学2年生で歴史の勉強をしています。覚えるのにとっても苦労しますが、がんばっています。僕は歴史が大好きです。縄文時代や弥生時代とはちがいますが、僕はNHKの歴史誕生や「太平記」などよく見ます。だから、将来は先生方のように歴史にかかわった仕事をしたいと思っています。

この体験学習ではいろんな人とコミュニケーションがとれてとても良かったです。優しい人々ばかりで、いろいろ話しかけてくださいました。これからもこのような行事ある時はすすんで参加し、いろんな人々とコミュニケーションをもっていきたい。先生方もいろんな仕事でいそがしいと思いますが、がんばってください。

市木（中2）

☆ 秋期特別展開催のお知らせ

市立埋蔵文化財センターでは下記のとおり、秋期特別展を開催いたします。今回の特別展は「野洲川－水と人とのかかわり－」をテーマに、この地域に生きる人々と野洲川とのかかわりを様々な資料をとおして見ます。この機会に母なる、野洲川の歴史にふれてみてはいかがでしょうか。なお期間中は無休です。

記

開催テーマ 『野洲川－水と人とのかかわり－』

開催期間 平成3年11月23日(祝)～12月8日(日) 9:00～16:00

開催場所 守山市立埋蔵文化財センター

展示内容 野洲川のなりたちから改修までを5ブロックにわけ、民俗資料、考古資料、写真パネルなどを展示します。

開催行事 12月1日(日) 午後1:30～

(講演会) 演題 「野洲川のなりたち」

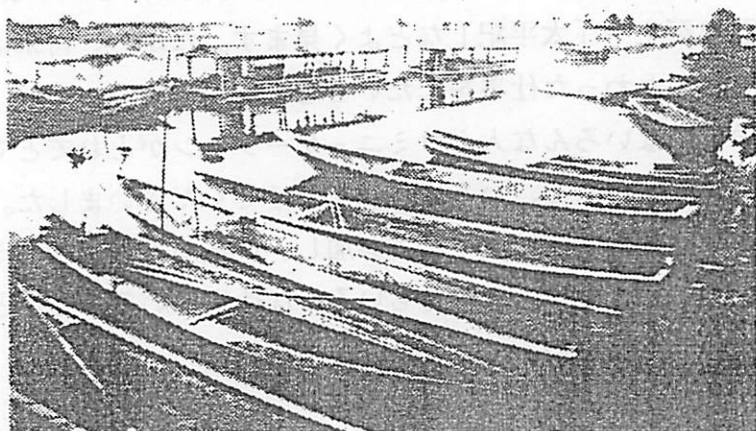
講師 田村 幹夫 (県立石山高校教諭)

12月8日(日) 午後1:30～

演題 「古代のいさり」

講師 大沼 芳幸

(滋賀県文化財保護協会主任技師)



赤野井港跡